

2020年度 生物(植物)分類・生態研修会

主催 愛知県自然観察指導員連絡協議会

●日 時 : 2020年11月7日(土)

●場 所 : 日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室 TEL : 052-331-2141

愛知県名古屋市中区金山一丁目5番1号
JR・名鉄金山駅下車、北口徒歩3~4分

●研修会 受付 : 13:30~

14:00~15:20 (講演) 休憩 (10分)

15:30~16:00 (意見交換会)

●講師 : 西田佐知子 名古屋大学博物館准教授

●演題 : 「植物学の歴史をたどる-伊藤圭介とボタニカルアート



●プロフィール

京都大学文学部卒業後、NHK勤務を経た後に植物学の世界へ。京都大学博士(人間・環境学)取得、兵庫県立人と自然の博物館研究員、名古屋大学博物館助手を経て現職。専門は植物分類学・生態学。おもな著書は、日本植物分類学会編「新しい植物分類学」(分担)、高倉耕一・西田隆義編著「繁殖干渉理論と実態」(分担)、伊藤由佳里編著「研究するって面白い! 科学者になった11人の物語」(分担)など

●講演要旨

植物学は、いまでこそDNAを調べる研究から地球規模での植物の生産活動を調べる研究まで、多様な発展を遂げています。しかし、もともとは身の回りにどんな草や木があって何が食べられ薬になるか知ろうとする心や、遠い異国にある未知の植物について見たい聞きたいという心から生まれました。それが東洋では本草学へ、西洋では博物学へと続いたのです。その後、本草学とは異なり、西洋の博物学は植物分類学、植物系統学へと大きく変化していきます。博物学は、なぜ現代のような植物分類学へと発展したのでしょうか? また、長く本草学を学んできた日本の学者たちは、どんなきっかけで西洋の博物学を取り入れたのでしょうか? 日本の博物学の発展には、伊藤圭介が深く関わっています。

講演では、植物分類学の歴史や伊藤圭介の人生のほか、演者が熱帯へ実際にでかけて植物採集してきた体験談、植物画作成の苦労話などをご紹介します。

※ 事前申込みのお願い

※三密が予想されます。先着、定員45名で、締め切ります(事務局までmail or TEL 氏名と支部名・連絡先を予約)人数を制限していますので、協議会会員のみとさせていただきます。

申込先/事務局 石原則義

電話 : 052-711-3087 FAX : 052-711-3087

メール : norimameobata@yahoo.co.jp

